



NIE 教育に新聞を

4

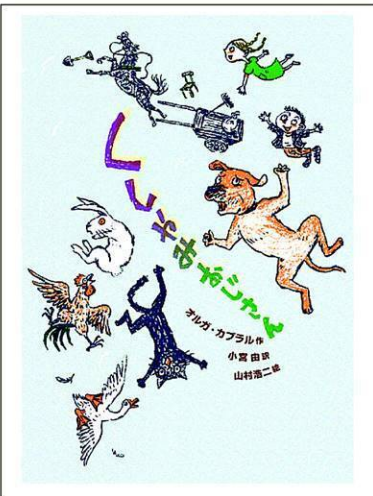
小学1・2年生向け

くしゃみおじさん

オルガ・カブラル作 小宮由訳 山村浩二絵

昔、ある家の裏庭に、白くて長い耳が自慢のウサギと、黒くて小さい耳が自慢の猫、大きな声を出せるのが自慢の犬が住んでいました。ある寒い日、廃品回収の荷馬車を通り、乗っていたおじさんが、「ヒャツツクション！」「ハツツクチン！」「ハツツプショーイ！」と3回も大きなくしゃみをしたので、砂煙が立ち何も見えなくなりました。砂煙が消えると、3匹は互いの姿を見比べ、何かがおかしいと気づきました。ウサギには黒く短い三角の耳が生え、猫には長い白い耳が生えています。おまけに犬は「ニャー」、猫は「ワン」としか言えません。あの大きなくしゃみが原因だと考えた3匹は、元に戻してもらおうと、荷馬車のおじさんを探しに出かけました。

(岩波書店 1430円)



小学3・4年生向け

りんごだんだん

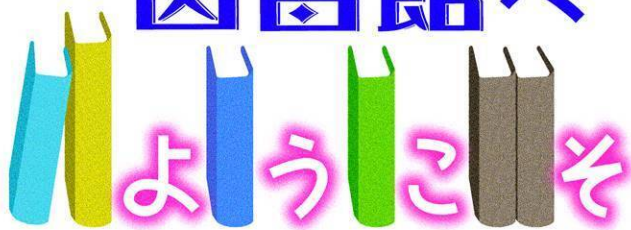
小川忠博写真・文

「りんご つるつる」。赤くて丸くて、つやつやとして、とてもおいしそうなりんごがあります。食べずに置いておくと、どうなるでしょう？ りんごが姿を変える様子を、何日かおきに写真で記録したこの絵本で見てください。89日目、「りんご じーっと」。採りたてのりんごと比べると、つやが消え、色は赤からオレンジになり、表面にしわが寄り始めました。220日目、「りんご しなしな」。りんごの実はくずれ始め、茶色くなって、しわしわで泡だった茶色い水がしみ出しています。さて、この後もりんごは色や形が変わっていきます。どうなるのか知りたい人は、続きを読んでみてください。

(あすなろ書房 1430円)



図書館へ



姿が変わる生き物や果物

冬になると葉を落とし姿を変える木のように、姿を変える、変化する場面がある本を紹介します。登場人物の姿形が変わる物語や、時間がたつと変化するもの、成長の過程で姿を変える昆虫、日本の東と西の地域で違いがあるものが登場します。

(山梨県立図書館 小林和美) = 毎月第2週に掲載します

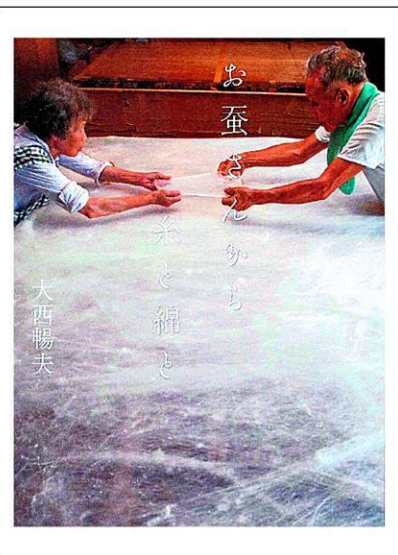
小学5・6年生向け

お蚕さんから糸と綿と

大西暢夫著

養蚕農家の西村さんの家では、春と秋の2回、蚕を育てています。部屋の中に組み立てた棚の上に竹ざるを置いて紙を敷き、卵から生まれたばかりのたくさんの白く細長い幼虫を載せます。餌の桑の葉を置くと、「ムシャムシャムシャ」と葉を食べる音がして、あっという間に食べつくしてしまいます。うんちやおしっこもするので、西村さんたちは餌やりや、掃除に大忙しです。育て始めて20日目、大きく成長した蚕が頭を持ち上げ、体を反り上げ始めました。この後、蚕は食べることをやめ、体の周りに細い繊維を吐いて、丸い繭を作り、さなぎに変化します。この繭を材料に、絹糸や白いふわふわの真綿を作る方法を写真で紹介しています。

(アリス館 1650円)



中学生向け

くらべる東西

おかべたかし文 山出高士写真

日本の東（主に関東）と西（主に関西）の地域を比べてみると、文化・風俗が異なっている場合があります。どんな違いがあるのでしょうか？ 東のものと西のものを、見開きの写真で紹介している本で見比べてみましょう。例えば、甘く煮た油揚げに、酢飯を入りたいなり寿司。東のいなり寿司は俵形で、中身は主に白い酢飯です。西はなんと三角形で、中身は具入りの場合もあります。いなり寿司以外にも、違うものがたくさんあります。おでん、ひな人形、座布団、線香花火、電車（環状線）、タクシー、銭湯、タマゴサンドなど身近なものから、猫の尻尾など意外なものまで、東西の違いを楽しんでみませんか？

(東京書籍 1430円)

